７月定例教育委員会　資料	
年月日	平成２９年7月２５日
担当課	教育委員会文化財課

報告事項（３）

鳥取市歴史博物館　常設展示ありかた検討委員会の設置について

１．目的

平成 12 年の開館以来 17 年を経過し、旧態化の進んでいる鳥取市歴史博物館（やまびこ館）について、常設展示の更新について検討する。

２．事業概要

別添資料のような課題を前提に、常設展示について、学術的内容だけでなく、運用を視野にいれた検討を行い、31 年度以降に常設展示の更新行う。

【検討委員（案)】

坂本　敬司　　鳥取地域史研究会会員（元鳥取県立博物館学芸員）
澤田　廉路　　鳥取大学特命助教授
（学識経験者）　芸術文化を専門とする大学教授
（学識経験者）　先進歴史系博物館学芸員
（教育経験者）　中学校教員

【スケジュール（案)】

29 年７月　　委員会の設置
　　基礎資料作成
29 年 8 月　　第 1 回委員会
　　委員会内容を受けて素案作成・指定管理者と協議
29 年 10 月　　第 2 回委員会・文化財審議会で報告
30 年 2 月　　第 3 回委員会または個別報告
30 年 3 月　　報告書作成
30 年 4 月　　指定管理者と協議し、設計案作成
30 年 8 月　　第 4 回委員会
30 年 12 月　　第 5 回委員会

参考資料

鳥取市歴史博物館　常設展示等課題確認に係る専門家指導について（要旨まとめ）

平成２９年 5 月 9 日

標記の件について下記のとおり実施しましたので報告します。

日　　時：　２月１７日（金）　９：００～１５：００

指　　導：　坂本　敬司　氏（前鳥取県史編さん室長・元鳥取県立博物館学芸員）
澤田　廉路　氏（鳥取大学特命准教授）

対　　応：　鳥取市教育委員会文化財課　冨田課長・中道参事・佐々木・加川主幹
（現地案内　鳥取市歴史博物館学芸員）

目　　的：　平成１２年の開館以来１６年を経過し、旧態化している鳥取市歴史博物館の常設展示室について、課題を指摘いただき、併せて今後の対応方針等についてご意見をいただく。
鳥取市の中核市移行と、鳥取市全体の歴史・文化施設のセンター館としての位置付けを前提に、常設展示の更新について検討するための基礎資料とするため、常設展示以外の運営、博物館活動についても、所見をいただく。

日　　程：　９：００　市文化財課　事務室集合
９：３０　やまびこ館に移動
（１）　説明なしでの視察（来館者と同じ視線での視察）
（２）　（１）の後、学芸員による説明をうけつつ視察
（３）　館長（副館長）面会
１２：００　やまびこ館喫茶室「ヒストリア」で昼食（実費・任意）
１３：３０　市文化財課事務室に移動
指導・協議
１５：００　終了

結果の概要：　※常設展示室の現状について＝展示の陳腐化、機材の老朽化等、多くの指摘を受けた。
※当面、運用方法を工夫して対応する必要があるが、根本的に展示を見直すことが課題であるとの指摘を受けた。
※今後の検討方針、検討方法、体制等について協議し、特色ある博物館として検討していくためには、地域の事情をよく把握している委員による検討が望ましいとの所見を得た。

【指導概要】

1．展示室視察時（解説なし）

澤田先生：・あまりにも情報が古くなっている。

・また、導線やコーナーごとの意味が分かりづらい。

・来館者は鳥取のことを知ろうと思って入って来るのにいきなり世界のことから始まっている。

・コンピューターを利用しているものについては、スマートフォンやタブレットで個人でも見られるものが多く、情報の内容はともかく展示方法としてはむしろネット等の方が高度なものになっている。

・情報の量・密度が高すぎて、普通に来館して観るには過剰になっている。見きれないので流してみていると、結局なにも残らない。

坂本先生：・開館当時は先進的で、高く評価できる常設展示だった。時間の経過で陳腐化しているのは仕方ない。

・導線や展示物など、当時としての工夫は十分わかるが、もっと来館者寄りになってもいい。

・また、開館当時は、展示について事細かに説明するより、来館者に考えてもらうタイプの展示が主流だった。説明を最小限にして、さまざまなことを考えられるように工夫しているが、近年の来館者の傾向では、より詳細に、細やかな説明を求める方向に変わってきている。

・いずれにせよ、早急に根本的に常設展示を見直す必要はある。

2．展示室視察時（学芸員解説つき）

澤田先生：・最後のゾーンが殺風景だし、展示物も陳腐になっている。やめてしまって、他の展示にした方がいいのではないか。

・学芸員の解説がつくと、随分印象は良くなった。人が説明することで生き返る部分もあると思う。

・もっと市民や外部の協力者を巻き込んで、「動いている」感じを出すのも重要だと思う。「友の会」が無いのには驚いた。

・中には面白い展示物、展示コーナーもあるので、運用で工夫してみることも必要だと思う。

坂本先生：・小さなことでもいいので、学芸員が常設展示を動かしている雰囲気をつくることが大事。

・城下町のコーナーのフキダシなどは良い例だと思うが、単に正確に説明したりいいものを見せたりするだけでなく、学芸員が自分なりのセンスで工夫をすることも大切。

・専門職員として、学芸員がもっと個性を発揮した方が良い。

・災害と復興のコーナーなどが典型例だが、説明文は詳細で正確なのは良いけれど、記述として細かすぎる。もっと端的に、来館者に求心力のある方法を考えた方がいい。

・機材の更新は絶対に必要だが、急にはできないことだと思うので、この「古臭さ」自体を活かす工夫も考えてみればいいと思う。テレビモニターなど、最近の小学生にとっては目新しいのではないかと思う。

・大規模な展示替えの機会があれば、同じようなデジタル系の展示にするより、資料展示を中心としたオーソドックスなものにした方が良い。

3．議事まとめ（文化財課事務室）

坂本先生：・常設展示だけの問題ではなく、運営に過剰な労力がかかっているのではないか。

・展覧会オープンに図録が間に合わないなどの様子を見ると、イベントの数と質について見直す必要があると思う。

・せっかく質の高い展覧会を開催しているのに、図録の無い場合や、図録以外に成果がまとめられていないことが多い。

・自分でもこれまで取り組んで来たが、古文書読解ボランティアを育成したり、地区公民館など、外部の人材を取りこんで、施設としての幅を広げることも必要。

・とりあえず、現状の展示を活かした運営で対応しながら、時期をみて根本的に、常設展示だけでなく運営の在り方を再考すべき。

・地域の歴史を、正負の両面の事実を踏まえて、地域の人たちに知ってもらうことが最も大切。

・観覧に時間がかかりすぎる。じっくり見られるもの、逸品の展示が欲しい。収蔵しているものの中に良い資料もあるので。

澤田先生：・収集保存の面で、各地域にある歴史民俗資料館や埋蔵文化財センターとの関係の整理が大切。貴重な資料を死蔵しないで、展示だけでなく普及活動にも活かして欲しい。

・センター館的なものとしてやまびこ館を位置付けるにしても、何をもって、どういった機能のセンター館にするのかというビジョンが必要。

・平成 16 年以降の合併後の新しい市域の情報がないのは根本的な問題。

坂本先生：・今後、あり方の検討をしていくということだが、遠方の先生にお願いするより、地域密着型で人を集めて検討した方がいい。鳥取のことは地元の人の方が良くわかっている。

・一日・二日、検討会のためだけに来ているような委員で検討会をやる意味はないと思うし、そのような形態なら参加したくない。熱意のある委員を選んで

ほしい。

澤田先生：・いずれにせよ、どのような性格の施設・組織として博物館を位置付けていくのか、市として明確なビジョンをもつ必要がある。

・単なる観光施設ではなく、市民、地域住民にとって意味ある施設であることを望む。